

2024年8月25日（聖霊降臨後第14主日、特定16、B年）

牧師メッセージ

「教会はただ主の助けによってのみ健全に立つことができます」

（ヨハネによる福音書6：56-69）

司祭ヨセフ太田信三

今日の特祷、「主よ、教会はただ主の助けによってのみ健全に立つことができます。」という祈りに心底共感します。教会とて、人間的な思いにすぐに支配されてしまうからです。イエスは今日の福音で、「肉は何の役にも立たない」とはっきり言います。肉とは自分の思いに固執し、語りかけられている神の言葉に耳を塞いでいる人間のことです。肉に支配された人間の姿が、今日の福音には鮮やかなまでに明らかにされています。それは、イエスの言葉を聞いて離れていった弟子たちの姿です。12人の弟子以外にも、イエスのもとには沢山の弟子がいました。イエスの話を聞いたその弟子たちの多くが、「実にひどい話だ。だれが、こんな話を聞いていられようか」とつぶやき、イエスから離れていってしまったのです。仮にも弟子と言われた人々です。しかしその多くが、イエスの言葉を聞いて離れていってしまったのです。本当に悲しいことです。それほどに「肉」の力は強く、人を支配し、悲しい方向へと歩ませます。

肉の言葉と神の言葉はどこで見分けることができるのでしょうか。それは、「命を与えるのは霊である。肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、命である。」とイエスが言われている通り、その言葉が「命に繋がる言葉」か、「破壊や分裂に繋がる言葉」か、ということで見分けることができます。イエスから離れていった弟子たちのつぶやきは、まさに肉の言葉です。人が肉にとどまっている限り、イエスの言葉は聞こえません。「私の肉を食べ、私の血を飲む者は、私の内にとどまり、私もまたその人の内にとどまる。生ける父が私をお遣わしになり、私が父によって生きるように、私を食べる者も私によって生きる。」というイエスの言葉を心に刻みたいと思います。イエスが肉となり、血となって、私の体そのものになってくださるからこそ、私たちは肉ではなく、内に宿られる主によって導かれ、生かされる命へと変えられます。その時、わたしたちは肉に従う「離れていく」生き方ではなく、霊に従う「命に繋がる」生き方をすることができます。そのために、いつも主はその言葉と体で私たちを養い、私たちを助けてくださいます。その主の助けによってこそ、私たちは、そして教会は歩んでいくことができます。自分は大丈夫と勘違いするのではなく、自分自身が肉に弱いことを自覚することが、クリスチャンにとっては不可欠です。その自覚があるからこそ、肉に支配され「離れてしまう」自分であっても、「近づいて」語りかけてくださるイエスの存在のぬくもりを感じることができるし、言葉の力と、その恵みの大きさを知ることができるのです。